

第4回総合計画審議会の意見

【第3章重点プログラム】

No.	意見
1	「1 子どもを育てる環境」に関して、市立横須賀総合高校のような施設環境が整った高校が増えてほしい。また、こうした高校をもっと活用してほしい。公立高校の目標、ビジョンがもう少ししっかりできるとよい。
2	「2 生涯を過ごす環境」の「障害のない都市基盤づくり」に関して、道路の補修等都市基盤づくりを積極的に進めて、誰もが活用しやすい安全な道路ができればよい。また、街路樹の整備などを進め、その街路樹の手入れを通じた地域の連携が図れるとよい。
3	「3 自然環境」の「豊かな山林や海岸の保全・再生」に関して、水がきれいで、子どもが安全に遊べる構造の川を増やし、子どもたちが遊べる環境が増えるとよい。遊ぶ場所の充実には、子どもだけでなく、大人の交流の場としても効果的である。
4	「4 安全・安心」の「大型自然災害への体制整備」に関して、市役所が非常時にすばやい対策を取ることができることをアピールするために、各地区において、支援を必要とする住民の状況を把握するためのアンケートを実施してはどうか。
5	「5 まちの活気」の「企業誘致の推進」と「雇用対策の推進」に関して、横須賀市に拠点を置く企業への支援を充実させていくことで、新たな企業の誘致に繋げていければよい。雇用対策の推進のための既存企業への支援と、新規企業の誘致を並行して実施すると、横須賀市の資源が分散されるので、どちらか一方に資源を集中して、取り組みの効果を上げていくことも大切ではないか。
6	「6 利便性」の「横須賀市内の幹線道路の渋滞」に関して、特に駅前周辺は、送り迎えの車による駐停車や国道16号線からの車の合流で渋滞している。駅前での駐停車禁止を徹底するとともに、駅前のスペースを確保してほしい。
7	子どもにより高い教育を受けさせるために、横浜市など市外に転出する家庭がみられる。また、横須賀市でも所得により教育環境の二極化が進んでいる。こうした格差を除くための取り組みを課題の中に入れてほしい。子どもが生き生きと育つためには、市が全ての子どもが平等に教育を受けられる環境づくりに取り組むことが必要だ。
8	横須賀市の住民に、市の取り組みを認識してもらうためのアピール、また、横須賀市の一員としての意識付けが最も重要である。
9	計画を絵に描いた餅ではなく、実質的なものにするための仕組みづくりがとても大事である。
10	資料の「重点プログラムの概要」に関して、「横須賀が取り組むべき課題」から「重点プログラム」への流れは唐突な気がする。別の資料の2枚目にある「施策別の課題の整理」を間に入れるべきではないか。
11	資料の「根底にある基本的な戦略」に関して、戦略2の文章中の「一方で、プラス思考で考えれば」という記述は、高齢化がマイナスだと言っているようで不適切ではないか。また、「高齢者を都市活力の源泉と捉えない限り」など文章自体がマイナス志向のように感じる。
12	都市力6の「利便性」の横須賀が取り組むべき課題の「広域的な道路網と鉄道網の整備」について、鉄道網の整備は何を想定しているのか。2021年までに何か鉄道網の整備を予定しているのか。

No.	意見
13	高齢者の社会での活躍は当然であり、非常に重要な財産であるという書き方にした方がよい。
14	7つの都市力とは一般的に使われていることなのか、それとも横須賀市が考え出したものなのか。
15	都市力の順番を重点プログラムの順番にそろえた方がよい。重点プログラムでは1番目が「環境を守るプログラム」で、「新しい芽を育むプログラム」は3番目なので、都市力3「自然環境」を1番目にした方が、「施策別の課題の整理」を重点プログラムの前に入れたとしても、表現が統一されてわかりやすい。
16	重点プログラムの前に課題の整理を入れ、都市力の順番を変える選択肢はあると思う。
17	配付資料の文字が小さく、また多すぎるので、市民会議の資料を想定すると参加者には理解してもらいにくいと思う。
18	「横須賀が取り組むべき課題」からどのようにして「施策別の課題の整理」が出てくるのか、1つの矢印で繋いただけではわかりにくい。
19	「7つの都市力」についても、どのように出てきたのかがわからない。
20	「課題」が多用されており、マイナス志向のように感じる。同じ「課題」でも、県平均に比べて横須賀市が劣っている部分としての「課題」と、横須賀市が持っている強みに関する「課題」とが混合されているため、わかりにくい。
21	市民意見・ニーズに「出産場所・産科医の不足」とあるが、具体的な目標数値はあるのか。また、実現に向けた時間についても、5年、10年、あるいは20年かかるのかが見えない。
22	横須賀市のリソースについては小さく示されているだけで、リソースを裏づける具体的なデータも、ナンバーワンなのかオンリーワンなのかという位置づけもない。課題を解決するためのリソースの活用方策や、そのために市民の参加を促進するようなメッセージ性も必要ではないか。
23	どのくらいの期間で施策のどの部分まで実施するといった工程表の提示が必要である。
24	5つの重点プログラムはわかりやすいが、それらにつなげるための7つの都市力については、重複感もあり整理が必要だ。例えば、都市力「1 子どもを育てる環境」と「4 安全・安心」の両方に防犯対策が重複している。
25	重点プログラムが具体的にどの課題のソリューションになっているのかを示せばわかりやすいのではないか。
26	計画には目標が必要である。目標とする都市はあるのか。また、何年までにどの程度の人口で食い止めるといった目標値があった方が、市民にとってもわかりやすい。
27	人口予測は非常に難しく、どこまでできるか。目標とする都市については、横浜市とも藤沢市とも違うオンリーワンの横須賀を目指すことになると思うが、横須賀の強みのどの部分を強調するのか戦略が必要だと思う。

No.	意見
28	重点プログラムの2「命を守るプログラム」の1番目の文章を参考にして、「根底にある基本的な戦略」の戦略2の表現を、ポジティブな表現に書き換えてはどうか。
29	課題の捉え方は、メッセージの与え方で変わる。楽しく夢を描きながら、力をあわせられるような資料の提示の仕方もあるのではないかな。
30	根底にある基本的な戦略の表現で、「人」は都市活力を生み出す最大のリソースとあるが、人材は「人材」という表現にしてはどうか。
31	重点プログラム5「地域力を育むプログラム」では「それぞれの地域が個性や魅力を生かしながら、主役としてまちづくりに取り組む」とあるが、「地域」とはどのような単位を考えているのか。
32	地域に権限や財源を下ろしていくことを想定しているのか。
33	市民と行政との協働についての市のスタンスをこの部分に書き込む必要がある。
34	重点プログラムには「課題」が多用されているが、「課題」には平均点には達していない「課題」と、平均点には達しているが、トップレベルには達していないという「課題」の2種類がある。早急に取り組むべき前者の課題と、引き続き取り組む必要がある後者の課題とで、市民にわかりやすいよう、課題へのアプローチの仕方で分けられるとよい。
35	「横須賀が直面する危機」の「深刻な財政状況」は、市民にとってわかりにくい。箱物をつくり過ぎたのは想像できるが、実際、どの程度深刻な状況にあるのかわかりやすく示すべき。また、箱物のマイナス面だけでなく、既存のものを生かすなどポジティブな夢のあるものもあげてほしい。例えば、芸術劇場で歌ってみたいという子どもの夢が、将来を芸術の方向に進ませるかもしれない。
36	一般市民にとっては、プログラムという言葉は理解しにくいという印象がある。
37	重点プログラムは、施策をカバーするとともに、方向性を含んだ表現だと思う。言葉の使い方と議論がストップするほど無駄なことではない。カタカナ言葉が嫌いな人もいるかもしれないが、「重点プログラム」という表現もできることを説明すれば理解は得られるのではないかな。
38	横須賀市の地域区分には、東西南北地域の4区分、本庁と行政センター単位の10区分、360の町内会・自治会による区分の3通りがある。地域福祉における地域区分は、市全体か地域福祉協議会単位になる。地域性に差がある横須賀では「地域力を育むプログラム」が重要である。
39	地域格差がないように、一方で、多様性を損なわないようにする必要があるが、非常に難しい課題である。
40	今の高齢者だけでなく、これから高齢者になる人も含めて地域に寄与することを文言レベルで表現してもらいたい。
41	「横須賀市が直面する危機」は全国共通の課題である。横須賀市のリソースを課題解決に活用するための戦略として人材の育成などを示してはどうか。また、重点プログラムと課題との対応関係をマトリクスなどで表現すればわかりやすくなる。市民が賢く議論できるよう、事務局にはより一層の工夫をお願いしたい。

No.	意見
42	横須賀市民であってもリソースを知らないこともあるので、たくさんのリソースがあるという部分をもっと大きくし、横須賀のよいところをもっと強調できるとよい。
43	素案の3ページ「厳しい財政状況への対応」に関して、経常収支比率は2004年から2005年の間に86.6から96.8になっているが、変化の理由について記載することが必要ではないか。また、経常収支比率よりも、市税収入や扶助費や医療費の推移などを比較した方がわかりやすいのではないか。
44	厳しい財政状況は、1つの家計に例えてみせるとわかりやすいかもしれない。
45	経常収支比率が急に跳ね上がった要因や、その成果などがわかるとよい。家庭に例えて、子どもが私立大学に入学したので入学金が必要だったなどの説明がいくつかあると、とてもわかりやすい。
46	横須賀のベスト20くらいに入る事業所は、スラスラと答えられるようにしておくべき。感覚でわからないことは数字でいくら頑張ってもわからない。数字は勿論大切だが、感覚で現場を知ることが重要。ベスト10くらいは後で教えてほしい。
47	前回特別委員会で出た意見には発言者の名前が記載されていたが、今回伏せられている。理由を教えてください。
48	特別委員会からのプログラムとは何かという質問について、プログラムやプロジェクト、計画そのもの意味ではないと思う。この柱にはこういったプログラムが記載され、具体的にはこのような事業があります、といったように、全体の政策や体系、言葉との関係を示せばよいと思う。
49	特別委員会からのプログラムについての質問に関連し、言葉は、定義をせずに使ってはいけない。一つひとつの用語にも、カッコ書きで説明を加えることが必要。
50	総合計画審議会と特別委員会の関係をあらためて教えてください。
51	本審議会は、答申の作成にあたり特別委員会からの意見について全てしっかり検討していく必要があるのか。あくまでも参考意見と受け止めればよいのか。
52	最終的な決定権は議会にあると思う。議会からの質問に対して、本審議会がすべて答える必要はないが、答えられるところは答えたほうがよいと理解した。
53	資料の「横須賀が直面する危機」に、人口減少、少子高齢化、財政の問題があるが、確かにそのとおり。しかし、次に書かれた戦略部分は目的と手段が混在してわかりにくい。目的か手段かで考え方や計画の練り方が全く違ってくるため、明確に分けて書くべき。
54	「横須賀が直面する危機」として3点記載されているうち、人口減少は、いくつかの原因があると思う。どのように原因を分けることができると考えるか。
55	自然減はコントロールはできるものでないが、社会減は環境を整備することで改善できる。この時代でも、人口が増加している自治体もあるように、政策として手を打つことができる。分けて考えることで、政策として何をすべきかも明確になる。
56	社会減の原因は産業。本市に斜陽産業しかなければ破綻する。新しい産業をおこし、育てていくことにより、市の財政は非常に豊かになる。これを手段と書かなくては、重点プログラムの内容が読みとれない。

No.	意見
57	資料の「ポリシー」はどのような意味で、重点プログラムの位置付けで書かれている「政策レベル」とはどういうことか。また、「リソース」は資源と理解したが、このように横文字で書く必要があるのか。さらに、他の資料には「ニード」という表現もあるが、これは誰からの欲求なのか。主語がなく、言葉だけが書かれている。
58	「根底にある基本的な戦略」の中に戦略1～3があるが、導入部として「時代の変化に対応していけるような柔軟性のある対応力」と記載してはどうか。後半に体制の記載はあるが、取り組み方についての記載がない。導入部に総論として入れてから、戦略1から3を取り組む必要があるという流れがほしいと思った。
59	資料の「横須賀市の取り組むべき課題」に、水に関する記述がない。横須賀市は主に相模川・酒匂川から取水しているが施設も老朽化している。相当積極的に取り組まなければ、災害面も含めて将来的に問題がある。水なくして、都市は存在しないのだから、表現としてもっと強調すべき。
60	上下水道局がマスタープランを策定しているので、整合性をとるべきである。
61	「市民意見・ニード」欄に待機児童の解消が示されているが、経済政策であることも認識してほしい。待機児童数50人が解消されれば、年収400万円の世帯としてトータルで2億円の所得が増え、税収も増加する。2億円の企業誘致は大変だが、これに比べればお金もそれほどかからない。経済政策としてすぐやるべき。
62	資料に「市内交通網の充実」や「広域的な道路網と鉄道網の整備」がある。鉄道網に関して具体的な構想があるのか。
63	前回、他の委員から、JRと京急の東京への到着時間の差に関する指摘があった。この辺りも、是非事業者(JR)に要望してほしい。
64	資料の「横須賀市が取り組むべき課題」で触れている、「心のバリアフリーの推進」は抽象的でわかりにくい。どういう内容か。
65	資料の「根底にある基本的な戦略」の戦略2に、高齢者の活力を生かすとある。「高齢者の経験が資源となって生かされる」というのは具体的にどういうことか。
66	資料のフロー図は理解しにくい。「根底にある基本的な戦略」から出た矢印が重点プログラムに伸びているが、これらの関係性がパッと見ただけではわからない。市民の目にふれる場で使うのなら、繋がりをわかりやすくすべき。
67	資料に、横須賀には沢山のリソースがあると書かれている。しかし3ページ「根底にある基本的な戦略」では、使うリソースは人に限られている。戦略で示すリソースが人だけで良いのか。半島の魅力もリソース、宝といえるのではないだろうか。
68	基本構想の「まちづくりの基本戦略」と基本計画の「根底にある基本の戦略」は、ともに3項目で戦略と位置付けられている。リンクはしてないと思うが、誤解を招かないよう言葉を変えるなど工夫が必要。
69	人を否定しているのではなく、人がいなければ成り立たないことも理解している。ただし、資料の2ページでは、横須賀のセールスポイントである半島なども含めリソースと捉えているので、3ページで人だけに集約されると、2ページは一体何だったのかと思ってしまう。2ページから3ページの流れの中で、人を取り上げたことが理解できるような説明があってもいい。

No.	意 見
70	まちなか居住の推進について説明してほしい。まちなかばかり整備されると困る。
71	西部地区をアーバンリゾートとして整備するという話があった。手つかずの自然を残すだけでなく、リゾートとして、人と金も入れて整備することも必要だと思う。
72	横須賀を住みやすいまちにするには、安全・安心が大切。警察によれば、青少年の覚醒剤の汚染も進んでおり、海岸や公園にたむろしている若者には覚醒剤などを使う人もいるとのこと。警察と横須賀市では、治安に対してどのような連携があるのか。横須賀の次代を担う若い人たちが覚醒剤に侵されては困る。しっかり対応してほしい。
73	「横須賀市が取り組む課題」に関連し、大型自然災害の体制整備について聞きたい。近年台風も大型化しており、自然災害で大きな被害が出ている。昨年も三浦半島では台風で大きな被害が出た。こうした災害に関し具体的な対策はあるのか。
74	港湾部に聞いたところ、災害時の港湾対策については、計画はあるが予算がないという。被災後の整備は迅速だと思うが、被害のない段階でしっかり整備することも、計画では重要なこと。
75	資料は1週間前には送ってもらえないか。家でじっくり読みたい。
76	議事録確認に時間がかかるなら、その他資料と別送でよい。委員の皆さんは、おおよその状況や様子を確認したいので、中間段階の資料でもかまわない。
77	特別委員会質疑一覧の「委員」とは特別委員会の委員を指すと思うが、「理事者」とは何を指すものか。
78	特別委員会質疑一覧にはどうして発言者名を記載しないのか。どういう議員がどのような発言をしているかについては、一市民としては当然知って良い内容ではないか。
79	委員だけではなく、理事者についても発言者が不明となっている。こうした状況では、発言内容が無責任なものになるのではないか。
80	総合計画審議会の発言者名を掲載せずに、特別委員会に資料を提出したとのことだが、総合計画審議会としてそのように要望は出していない。名前を記載しないと決めたことは、越権行為ではないか。
81	特別委員会の委員は総合計画審議会の構成員を承知していると思うが、総合計画審議会側には特別委員会の構成員名簿は提供されていない。このあたりに情報の齟齬もあるのではないか。
82	事務局は、議会側から、総合計画審議会での議論が進んでいるので、資料として求められて提示しているという立場ではないかと思う。そのため、そもそもキャッチボールという言葉自体に違和感を覚える。資料をどのように活用するかは、特別委員会側が決定すべきものであり、総合計画審議会で議論する内容ではない。
83	今後の扱いについて、総合計画審議会の資料に特別委員会発言者の氏名を記載するように要望はできないのか。
84	重点プログラムは課題を横断的に整理したものとなっているのか。それとも、横須賀市の課題が重点プログラムの中にちりばめられているのか。

No.	意見
85	どうして横須賀市の7つの課題が5つのプログラムに集約されるのか
86	重点プログラムという割には、抽象的なスローガンに終わっている。例えば、子どもを育てる環境で出産環境の充実とあるが、市内で半数近くの分娩を担っている医療機関が分娩を取りやめるといふ非常事態になっている。課題について、もう少しメリハリをつけて、緊急課題とするのか、産科医師の確保などと現実を見た課題の書き方でないと、机上の空論になるのではないか。
87	重点プログラムに番号がふられているが、それは優先順位と考えて良いのか。
88	今の表現では意味がないように思う。通り一遍の言葉だけではきれい事に終わりそうな気がするので、重点度が明確になるような表現が必要。
89	7つの都市力と課題の間に、どういう問題点があるかということが整理されずに課題として整理されてしまうので、わかりにくくなっているのではないか。
90	具体的に実施する内容があればわかりやすいが、都市ビジョンに関わる観点を記載しているので、何に取り組みたいのか、あるいは取り組まないといけないのかが見えにくくなっているように思う。
91	非常に具体的な課題まで掘り下げながら、プログラムということでいきなり抽象度が高くなっている。これとは別に実施計画を策定すると、重点プログラムとして記載した内容が宙に浮いてしまうのではないか。
92	今記載してある課題についても、子どもの問題、健康・医療の問題、自然、災害、仕事・商業、インフラ整備、情報・知名度などと、もっとシンプルにしてから、重点プログラムの内容につなげるとわかりやすくなるのではないか。
93	7つの都市力から重点プログラムにつなげているが、元になっている7つの都市力の順序と、重点プログラムの番号が必ずしも一致していない。例えば、7つの都市力では3番目になっている自然環境が、重点プログラムでは「環境を守るプログラム」と最初になっている。並びとして都市力の順番がこれでよいのかという疑問もある。
94	「根底にある基本的な戦略」について、内容はもっともだが、これはどういう位置付けなのか。基本計画全てに関わるものであるとするならば、重点プログラムの所ではなく、計画の前段で記載した方がよいのではないか。
95	人口減少などを「横須賀が直面する危機」として記載しているが、横須賀市には適正な人口があると思う。これを危機と捉えるから、重点プログラムや根底にある基本的な戦略という記述が必要となっているのではないか。そもそも、横須賀が直面する危機をここに記載する必要性はあるのか。
96	横須賀市の中だけで住みよいまちづくりが出来るのかという疑問もある。例えば、人を奪い合って自分の街に住めとか、企業に対してそちらの水は辛いぞ、こちらの水は甘いぞ、と呼びかけていって未来はあるのか。
97	大きなビジョンを記載しながら具体的な内容に入りたいという気持ちもわかるが、いきなり重点プログラムと出てきたときに、「何と何をしてくれるのか」と読んでしまう。この内容であれば、「基本戦略」という表現の方が誤解は少ないと思う。
98	人口減少や少子高齢化については、全国的な動向であり、それを踏まえて、最も適切と考えられる手段を講じていくしかないと思う。

No.	意見
99	「根底にある基本的な戦略」の戦略1の下から4行目で、「最大限に発揮するほか方法はありません」となっている。非常に限定的でマイナス思考の表現であるように思うので、「発揮することが望ましい方法」などとしてはどうか。
100	「根底にある基本的な戦略」の記載内容は、マイナスからの視点での記載が多くなっている。例えば、戦略2の中の「高齢化は～都市の体力を奪っていきます」という表現も該当するし、上部枠囲みの中の「潜在的な力のある人をどのように生かし」という表現も、潜在的な能力がない人を切り捨てるようなイメージがある。人間には誰でも計り知れない可能性があるの、それをどのように引き出すかが重要という記載の仕方がよい。
101	危機は適切な介入があれば成長に転ずることが根底にあると思う。そうすると、これからもより大きな危機が来るかもしれないが、こういう体制をとれば危機を克服できるという視点で考えた方がよい。
102	7つの都市力から5つにまとめたところに無理があるように思う。市民がどういうニーズをもっているかははっきりしており、それに対して課題はこういうものであるということでおよそ的確に整理できていると思う。一人ひとりの命や暮らしがあり、それを守っていくために、もっとも重要であるのが個々の力をどのように発揮できるのかである。そして、それを支える地域でのにぎわいがでてきて、地域力を活かしながら絆を結んでいくために我々が何をすべきかということが見えてくるのではないかと思う。
103	都市力から取り組むべき課題として結びつける時に、課題についてはもう少しわかりやすく補足する必要があるように思う。例えば、都市力6の「拠点集約型都市の構築」については、具体的に拠点をつくるのか、そこに集約していくのかなど、具体的なイメージを整理することも必要。また、都市力2の「障害のない都市基盤づくり」については、他のものと比較して異質であり内容を明確にする必要があると思う。
104	第1章、第2章で横須賀市としてどういう課題があるかを明らかにして、都市力を見極めながら進めていくということで重点プログラムを整理している。読み手としては具体的な内容が記載されながら抽象度が高くなる展開は、わかりにくくなる恐れがあるように思う。
105	社会経済環境や市民意見・ニードや横須賀の現状があり、そこからいきなり課題というのはわかりにくいと思う。現状は、あくまでも問題点ではなく現状しか書いていない。例えば少子高齢化が顕著というのは現状でしかなく、それがどのように問題なのかが整理されていない。現状を踏まえて、問題点を整理した上で、それを解決するための課題として整理しないとわかりにくい。
106	私学が少ないというのはどうしてここに記載されているのか。私学が少ないというのは横須賀市として問題点として認識しているということなのか。
107	高齢者に関して問題になっていることを、そんなに列挙する必要はなく、交通手段を端的に明記すべき。そういうことが重点であるべきなのに、非常にたくさんのことが列挙されてしまっは、高齢者が読むと笑ってしまう状況だ。働くところが少ないとか施設が少ないといったこと以前の問題がある。
108	谷戸のみどりと文化という言葉は、谷戸に住んでいる人からみたら笑い事だと思う。谷戸で重要な問題となっているのは独居老人や空き屋の問題。そういうことをきちんと把握してから、こうしたものをつくって欲しいと思う。そうでないと誰も読まない。
109	私自身が障害者団体に入っている中で議論になっているのは、通院や介護に関すること。例えば、タクシーチケットは支給されて良かったが、ガソリン券の支給はとまってしまった。こういった状況の中で市内でどのように通院するかといったことが重要な話題となっている。こうした点には触れずに、高齢者の雇用環境などの内容を記載してしまえば、障害者としては、市役所の中でこんな事が議論されているのか、と感じてしまう。
110	どこに視点を置いて現状を見るかによって、様々な指摘があり、ここではそれを列挙しているので、重点プログラムのようなもので整理しないといけないと思う。

No.	意見
111	個々の課題が他の課題と矛盾しないのかということも問題となる。例えば、自然環境を保全したいとっているが、一方では集客・定住施策の推進を謳っている。それらを解決するものとして、重点プログラム・戦略の必要性を押し出すことが必要だろうと思う。
112	資料の中で、横須賀の現状からすぐに課題につながっているが、現状をどのように市として見ているのかが抜けている。この点が明確になると説得力が増すのではないかな。
113	課題は、取り組むべき課題であるので政策課題でもあり、現状をここに記載しない方がよいのではないかな。
114	取り組むべき課題の3つめ、「障害のない都市基盤づくり」というのは、バリアフリーのことを想定しているのか。そうであれば「障壁」などの言葉の方が誤解は少ないのでは。
115	心のバリアフリーの推進というのも、意味はわかるが、もう少しわかりやすい表現の方がよい。
116	生物多様性への取組み推進も、これだけではよくわからない。現状などをたどると内容はわかるが、課題だけみると、内容はわからない。
117	「重点プログラムを導く条件の整理」の全体を通して説明がなく、いきなり現状や課題が整理されているが、かといってそれを説明していくとわかりにくい。そのため、その後に出てくる基本計画への前置きとして、先行きが不透明な社会であり、そこを歩んでいく上での課題やコンセプトとして内容を示せばよいのではないかな。
118	若い世代は横須賀に愛着を持つことが少ない。課題として、「5 地域力を育むプログラム」の説明文の中で「地域が個性や魅力を生かしながら」とあったり、「4 にぎわいを生むプログラム」でも、「都市の魅力」や「新たなブランドづくり」などの表現がある。これらの「地域は」は全て「横須賀市」の事なので、こうしたところで意識的に「横須賀」という言葉を使うことで、横須賀を盛り上げていこうという気持ちが高まるのではないかな。

総計審委員意見への対応方針の分類

No.	分類
1	意見を踏まえ修正するもの
2	参考意見と捉え修正は要しないもの
3	既に基本計画素案に盛り込まれているもの
4	実施計画の策定や事業の実施等の参考とするもの
5	策定手法に関するもの
6	質問事項と捉えるもの